



限りなき義理の愛大作戦2009 チョコ募金 もうすぐ7万口!!

今回、7万個のチョコレートを作りスタートした「限りなき義理の愛大作戦 2009」にご協力いただいた皆様、おかげさまで、作戦は成功裏に終わりそうです。

「こんなバレンタインデーがあつたらいいなあ」という思いつきから、4年前に「限りなき義理の愛大作戦」を始めましたが、それぞれのチョコレートメーカーが、極上のチョコを出してくるこの季節に、NGOが募金のために作ったチョコなど相手にもされないだろうと誰もが思っていたことでしょう。しかし、これだけ多くの方からの共感を得られたということは、この4年間の活動でイラクのがんの子どもたちと一緒に作り上げてきたこのチョコが、一粒、1500円もする某メーカーの高級チョコに決して劣るものではないという証明にもなったのではないのでしょうか？

かわいくて(イラクの子どもの絵)+おいしい(六花亭)=JIM-NETの義理チョコ×愛=イラクのがんの子どもたちの救命です。

現場での活動があつてのJIM-NETです。これからも、応援してください。

平和のために さとうまき (事務局長)



コーヒーにもよくあうチョコレート(六花亭製)



チョコを食べる難民キャンプの子ども

JIM-NETの医薬品支援の現状

■ イスタンブール会議

日本とイラクの医師が支援内容を検討するJIM-NET会議が、昨年10月15、16日の2日間にわたり、トルコのイスタンブールで開催されました。この会議は、イラクと日本の医師が、定期的集まり、支援内容の評価と今後の支援計画を議論するためのものです。

冒頭、井下医師は、「イラクが復興するにともない、JIM-NETの役割も、今後は学術的な協力に力を入れるようにしたい。そのための方向性を打ち出したい。」と挨拶。

今回の会議は、信州大学医学部の坂下教授が同行し、遺伝子解析の講義を行うなど、遺伝子解析を取り入れた治療率

の向上を検討しました。JCF(日本チェルノブイリ連帯基金)は、2名の医師をバグダッドから招聘し、遺伝子の解析に関する研修を地元松本市の信州大学医学部で実施することを決定しました。遺伝子の解析が行われると、劣化ウランとがん発症の因果関係なども解明される可能性があります。

■ 今イラクは？

イラクのドクターたちから、医療現場の現状報告がありました。バグダッドのマージン医師は、「抗がん剤を中心にJIM-NETに要請してきたが、今後、保健省がそういった薬のほとんどを調達できるようになると思う。維持療法に必要な抗生剤や、さまざまな検査に使う試薬などの支援を検討してほしい」との申し入れがありました。この報告からもわかるようにバグダッドの治安は確かに回復しています。

JIM-NETのまとめによると、08年4～9月までの薬支援の実績は、14,762,038円になりました。08年度の薬品供給は、ドル安の影響もあり3000万円程度になりそうです。バグダッドのセントラル小児教育病院では、JIM-NETが寄贈したセルセパレーター（血小板輸血を行うための装置）が再稼動し始めた結果、治療初期の死者が半減したとの報告がありました。支援の成果が目に見え始めました。

その一方で、バスラやモスルの治安は悪化しており、電気や水の事情もよくないようです。イラク国内の地域格差が進んでいます。実際、バグダッドの抗がん剤の要請金額はその後減少しましたが、抗生剤などのリクエストが来ているので、支援金額は従来と同じ程度です。

09年度は、チョコ募金の収益を中心に支援を継続します。

チョコ募金から見える子どもたちの現状

I サマーワに咲く花

A4のコピー用紙に描かれた絵を、たくさん抱えた少女が病院にやってきた。
ハウラ・ジャーメル(12歳)は、母親に連れられ300kmほど離れたサマーワから治療のためイラク南部の大都市バスラまで通わなくてはならない。サマーワは、陸上自衛隊が派遣されたこともあり、日本にはなじみの深い地名であるが、人口は20万人ほどで、歴史上ほ

2008年度上半期			
月	4	5	6
子ども福祉	¥1,250,097	¥610,178	¥1,038,952
セントラル	¥376,987	¥189,293	¥348,025
モスル	¥632,442	¥557,303	¥568,496
バスラ	¥649,834	¥818,415	¥645,437
合計	¥2,909,359	¥2,175,188	¥2,600,910

7	8	9	合計
¥636,827	¥681,717	¥1,250,097	¥5,743,300
¥111,364	¥126,858	¥376,987	¥1,152,526
¥344,633	¥806,093	¥632,442	¥3,188,786
¥866,041	¥878,926	¥649,834	¥4,677,426
¥1,958,864	¥2,493,594	¥2,909,359	¥14,762,038

とんど話題になることもなかった。日本政府は、復興支援として多額のODAを投入したが、5年たった今、再び忘れ去られた町となっている。

ハウラは、2年前、白血病と診断されたが、サマーワには病院がなく、バスラの病院への入退院を繰り返している。院内学級のイブラヒム先生(JIM-NETローカル・スタッフ)は、「ハウラはとても賢い子どもです。絵をたくさん描いてプレゼントしてくれる。その量が半端じゃないんです。いったい何が彼女をかき立てるんでしょう?」と不思議がる。

ハウラの描くのは花の絵がほとんど。「お花はきれい。イラク中がお花でいっぱいになったら素敵でしょう?」しかし、テロリストが誘拐をしている絵や、病院に水がなく医者が困り果てた絵も混じっていた。理想と現実が絵の中に交錯しているのだ。

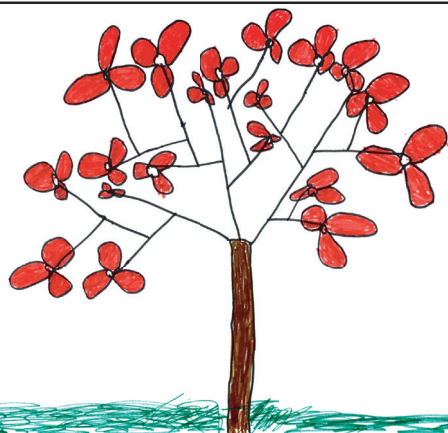
イブラヒム先生は、ハウラの家を家庭訪問することにした。

ナツメヤシの林が続く、サマーワからさらに30km離れたアルダワリン村は、1920年、イラクで最初にイギリスからの独立運動が起きた村だという。ハウラは、この村で、父母そして兄弟6人と一緒に暮らしている。サマーワでは仕事がないので、父親は日雇いの仕事を求め、家を離れることも多い。一家は庭のナツメヤシを売って何とか生計を立てている。

ハウラの白血病の治療は順調に進んでいる。

「イブラヒム先生に出会えて本当に幸せです。私の命を救ってくれました。彼は、病気で苦しんでいる私に、生きる希望を与えてくれました」

この家族にとって、300kmはなれたバスラの病院に行く交通費を工面するのは容易ではない。しかし、治療を続けないと白血病は確実に再発する。JIM-NETは、50ドルから100ドルの交通費を支援している。



チョコのパッケージのモチーフになった花の絵



学校に戻ったハウラ

彼女は、昨年の9月から4年生として再び学校に通いだした。教室はークラス70人ほどの生徒たちでぎゅうぎゅう詰めだ。校舎は老朽化し、天井には穴があいている。それでもハウラは、学校に行ける喜びをかみしめている。親友のサハールは、ハウラが学校に戻ってきてうれしそうだ。学校を休んでいるときも彼女の家を訪問し励ましてきたという。サハールはイブラヒムに「どうか、ハウラの命を助けてあげてください」と訴えた。



チョコをもつありし日のハニー

Ⅱ ハニーのすてきな微笑み

イラク戦争で難民になり、隣国ヨルダンで難民生活を送っていたハニーは11歳。卵巣がんを患っていた。父親は難民なので、ヨルダンでの就労は禁止されている。ヨルダンの医療保険制度も難民には適用されないため、治療費が払えず、病院にも行けないままがんは進行していた。

スマイルこどもクリニックの加藤ユカリ先生が彼女を救いたいと言い出した。

「いくらかかるか知ってますか?」

「個人支援をするのか?!」

「20%しか助からない」

「イラク国内には支援を待っている子どもたちがたくさんいる。」

「死んだらどうしよう…。でも出会ってしまったからには、この命を助けない。」葛藤が続く。

「100人いたら20人は助かるんだ。そこにかけてみよう。」

ハニーは、絵を描くのが大好きだ。絵描きになりたいという。しかし、集中して描くことができない。がんが大きくなって膀胱を圧迫しているので、1時間のうちに何度もトイレに行く。弱りきった彼女にはトイレの扉も重たすぎて自分では開けられない。

私は昨年の一、JIM-NETスタッフのタキ(加藤丈典)に連れられて、病院にお見舞いに行ったのだが、なんとその時、病院は、滞っていた治療費のかたにタキのパスポートを取り上げてしまった。

「私は、日本に帰れなくなっていましたよ」とタキは冗談を言っていたが、弱っていくハニーを見るのはつらい仕事だ。

「募金キャンペーンに使う絵を描いてほしい」とお願いすると、ハニーはとってもうれしそうな顔をした。抗がん剤のせいか髪の毛は抜け落ち、鉛筆を握る指先の皮膚はぼろぼろになっていた。それでも、力強く線をつなげていく。ハニーが描く1本1本の線が「私生きているわよ」と主張していた。私たちに出来上がった絵を見せて、「気に入った?」と微笑む。私たちは、大満足だった。

数日して、ハニーは息を引き取った。あの時彼女は、壮絶な痛みや苦しみに耐えていたのだ。それでも、絵を描くことで役に立ちたいという気持ちが、あんなにすてきな微笑みを生んだのだ。

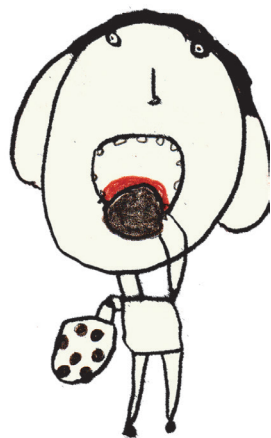
彼女が死んだとき、タキは、しばらく、ふさぎこんでいた。そうなるのは最初からわかっていた。

「あの時は、アラビア語なんか勉強するんじゃないかと思ったと思いました。彼女や家族の苦し

む言葉なんか聴きたくなかった。」

タキの仕事はイラクに薬を送り出すことだ。その仕事に停滞は許されない。タキが送り出す薬を待っている子どもたちがたくさんいるからだ。僕たちは悲しいからと言って立ち止まってはいけないのだ。そんなことは、誰よりもハニーンが許してくれないだろう。だから、今年の「限りなき義理の愛大作戦」のチョコレートのパッケージにはハニーンの描いてくれた絵を使った。

佐藤真紀(JIM-NET事務局長)



チョコパッケージに使ったハニーンの絵

バイバイ・ブッシュ

2008年の締めくくりは、なんといってもイラク人ジャーナリスト靴投げ事件でした。

12月14日、最後のイラク訪問記者会見中のブッシュ大統領に、「イラク人からの別れのキスだ。イヌめ」「これは夫を失った女性や孤児、イラクで命を失ったすべての人たちのためだ」と両方の靴を投げつけたのです。

個人的には、とてもスカッとした事件でした。まず、ブッシュ大統領の身のこなし、見事に靴の軌跡を見切っていました。もし靴があたって流血でもしていたらいやな感じになっていたでしょう。そして、ジャーナリストの発言。500万人以上の子どもが親をなくしました。家を失った人は400万人を超えています。死者の数は、10万を超えています。昨年のチョコキャンペーンでは、白血病のアハマッド君が描いたロナウジーニョ(ブラジルのサッカー選手)とお父さんが描いたハワール選手(イラク)の絵を使っています。爆弾テロに巻き込まれ、お父さんを亡くしたアハマッド君はサッカーが大好きで、お父さんと一緒によくサッカー選手の絵を描いていました。このパッケージの中側には、孤児の数が書かれています。



JIM-NETのチョコ募金には、おいしいチョコレートと一緒に、イラクの真実を伝えるという目的もあります。靴投げに比べれば、地道な活動ですが、私たちのチョコが描く軌跡にもぜひ注目を!

さて、年末の27日からイスラエルがガザに激しい攻撃を加え、年明けの17日にイスラエルから一方的に停戦を宣言しましたが、この間1300人を超える死者が出ていま



1月25日のカフェトーク（町田市 ギャラリーカフェ アルル。）

す。これは、かつてなかった規模の攻撃です。

実は、JIM-NETもパレスチナと無縁ではありません。イラクやヨルダンの支援活動現場で、JIM-NETは多くのパレスチナ人たちの協力を得て活動してきました。イラク戦争で行き場を失った、バグダッドに住んでいたパレスチナ人たちのキャンプがイラク・シリア国境にあるのですが、最近ではそこでの医療支援も行っています。

イスラエル建国で難民になったパレスチナ人が、60年経って再びテント生活を強いられていることは、意外に知られていません。なぜそうなるかという、難民の帰還権が和平交渉の中で後回しにされてきたからです。

今回のイスラエルによるガザ攻撃でも、パレスチナ問題の根本的な解決を視野に入れなければなりません。一般の市民の犠牲者を出さないように、国際社会も真剣に取り組むことが必要です。私たちも現場からの声を伝えていければということで、JIM-NETの参加団体でガザでの支援活動を続けているJVCとも協力していくことになりました。

そして「限りなき義理の愛大作戦」の中のイベント、1月25日、2月1日のカフェトークでも、急遽テーマを変更し、イラクとパレスチナI『ガザ 最新情報』、II『バグダッドを追われたパレスチナ難民』という表題で、ヤスミン植月千春さんのカーヌーンの演奏やJIM-NETスタッフの大嶋愛のピアノ弾き語りなどを楽しみつつ、2週連続で参加者の皆さんとこの問題について考えました。

都心から離れた郊外のギャラリーには、2回とも会場いっぱいの方が訪れ、集まった約5万円のガザ支援カンパがJVCに託されました。皆さま、ありがとうございました。

事務局長談

限りなき義理の愛大作戦2009 締めくくりのイベント

ヒロシマからイラクへ ～放射能に脅かされる子どもたち～

「チョコを媒介にした募金キャンペーン「限りなき義理の愛大作戦」は、イラクのがん・白血病の子どもたちの医療支援のための資金を募ると同時に、子どもたちのことを知っていただくことも、その大きな目的となっています。そして、キャンペーンの締めくくりとなる2月22日開催の「ヒロシマからイラクへ ～放射能に脅かされる子どもたち～」では、埋もれていた佳作『千羽鶴』を見ることで、ヒロシマに始まる放射線に

よる健康被害が、イラクの子どもたちをはじめとする、現代の世界へとつながっていることを認識していただくことで、世界のヒバクシャに目を向け、助け合っていくことを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

『ヒロシマからイラクへ ～放射能に脅かされる子どもたち～』

○『命・環境・平和を語る』…………… 鎌田實 JIM-NET代表

○ イラクの子どもたちの最新報告 …………… 佐藤真紀JIM-NET事務局長

○ 映画『千羽鶴』1958年 木村莊十二 監督作品 出演:菅井美智子、加藤嘉 他

■ 日時：2009年2月22日(日) 午後2時～4時30分 (1時15分開演))

■ 会場：文京学院大学 本郷キャンパス 仁愛ホール

■ 共催：学校法人文京学園、JIM-NET ■ 協力：共同映画株式会社

■ 入場無料：参加ご希望の方は、往復はがきに次の項目をご記入の上、下記宛てにお申し込みください。

往信 ウラ：入場ご希望人数、氏名、住所、電話番号

返信 オモテ：あて先住所、氏名

あて先：〒171-0033都豊島区高田3-10-24 第二大島ビル303 JIM-NET

「ヒロシマからイラクへ」係

～ 千羽鶴 ストーリー ～

1958年に製作されたこの映画は、広島市の平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルになった佐々木禎子さんの周辺の人々への綿密な取材を元につくられました。したがっていくつかのフィクションはあるものの、概ね事実に基づいた内容です。

禎子は、歌が得意な、駆けっこは男の子もかなわないほどの快活な少女で、クラスの人気者でした。

禎子が六年生になったとき、北川先生(禎子の担任だった野村先生がモデル)という男性教諭が赴任してきます。いさかいが絶えないクラスに、北川先生は「団結」をクラスの目標とし、卒業までに達成しようと提案します。北川先生の思いを、子どもたちは少しずつ理解していきます。この映画の前半の、体育の時間に子どもたちが助け合いながら山に駆け登り、山頂で禎子が歌いだした美空ひばりの『こだまは歌うよ(作詞・作曲：米山正夫)』にクラス全員が唱和していく場面は、子どもたちが「団結」を手に入れていく様子がよく表れています。

夏祭りの夜、禎子を突然病魔が襲います。原爆症でした。禎子は入院生活を余儀なくされます。入院中の禎子は、回復を信じ、祈るような思いでノートに白血球の数を記録していきます。しかし禎子の願いを欺くかのように、白血球の数は増える一方です。禎子のクラスメイトたちは、禎子を気遣い、頻繁に見舞いに訪れます。

卒業式の日、式に出席できない禎子に代わって父親が卒業証書を受け取りに来ます。そしてこの日、禎子の同級生たちは「団結の会」をつくり、ずっと禎子を励ましていこうと誓います。

同じ病室でそんな禎子の様子を見守る少女がいました。映画の中で「佳代ねえさん」

と呼ばれているこの少女は、後に「サダコ」・虹基金を設立することになる大倉記代さんがモデルとなっています。同じ病棟の子どもが亡くなった時、自分もあんなふうにして死んでいくのかと、死への恐怖を訴える禎子。佳代ねえさんはそんな禎子を励まします。この場面は、大倉さんの著書『思い出のサダコ』にも描かれています。

佳代ねえさんから、鶴を千羽折れば病気がよくなるという話を聞いた禎子は懸命に鶴を折り始めます。そのせいなのか、禎子の容態はよくなり8月6日の記念日には外泊を許されるまでになります。しかし、家族と一緒に平和記念公園へ向かう途中、禎子の容態が急変します。そして禎子は六百余羽の折鶴を残しこの世を去ります。

「団結の会」の子どもたちから禎子のために記念像を建てようという話が持ち上がります。子どもたちは、広島で開かれた全国中学校長会議で手作りのビラをまくなど、像建設の運動を盛り上げていき、「広島平和を築く児童・生徒の会」も結成され、運動は全国に広がっていきます。そしてとうとう子どもたちの平和への思いが結実した「原爆の子の像」が、広島平和記念公園にその姿を現します。



～チョコ募金とともに寄せられたメッセージから～

皆さま、ありがとうございます!

■ 去年初めて参加させて頂きましたが、子供達が一生懸命に書いた絵に胸があつくなりました。子供達のおかれている境遇は決して良いものではないのに、書かれている絵に暗さはありませんでした。1セットで申し訳ありませんが、少しでも支援できればと参加致しました。子供達は勿論スタッフの方々も頑張ってください。

■ 昨年申込しましたが、とても美味しく且つ配っても遠慮されないし、お返しの心配されないし、医療支援募金にもなるという一石四鳥ぐらい価値のあるものです。とてもありがたいです。今年もよろしくお願いします。

■ パッケージのかわいさにノックアウトされました。イラクの子供たちから義理チョコをもらったつもりになって、人には渡さず自分のものにしてしまおうと思っています。これからもずっとつづけてください。

■ 世の中のばかげた流行を逆手にとつての企画、フツウの人たちにも「イラク」の話題が広がることを願って、少しですが申し込みます。

■ 今年で3回目の参加となります。「限りなき義理の愛大作戦」、これからも毎年心からの愛をもって参加させていただきたいと思っています。今年いただいたチョコは、受験生の息子にお守りのつもりで持たせました。

■ バレンタインには無縁ですが、こんな義理チョコなら、喜んでいただきます。もちろん、周りにお裾分けします。

■ チョコ募金は、永六輔さんのラジオ番組にお出になっていた鎌田先生のお話で知りました。いいアイデアですね! 職場の女性陣に提案したところ、皆喜んで賛成してくれました。職場の男性陣+近所の子供たちにあげたいと思います。皆様の活動のお役に立てれば幸いです。これからも活動がんばってください

JIM-NET便り 2008年冬号

発行：日本イラク医療支援ネットワーク

発行日：2009年2月11日

〒171-0033

東京都豊島区高田3-10-24 第二大島ビル303

☎ 03-6228-0746